

各 位

## トモニホールディングスグループの平成31年3月期第2四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、平成31年3月期第2四半期（平成30年4月1日～平成30年9月30日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：吉岡宏美）、香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：本田典孝）及び大正銀行（本店：大阪府中央区、頭取：吉田雅昭）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

## 1. トモニホールディングス

## (1) 平成31年3月期第2四半期（平成30年4月1日～平成30年9月30日）連結業績

当第2四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び国債等債券売却益が増加したこと等により、前年同期比1,974百万円増加して36,871百万円となりました。経常費用は、国債等債券売却損及び与信関連費用が増加したこと等により、前年同期比1,913百万円増加して28,061百万円となりました。その結果、経常利益は前年同期比61百万円増加して8,810百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比715百万円増加して6,579百万円となりました。

当第2四半期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は前年度末比158億円増加して3兆8,282億円となり、純資産残高は前年度末比59億円増加して2,251億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は前年度末比966億円増加して3兆4,963億円、貸出金残高は前年度末比512億円増加して2兆7,289億円、有価証券残高は前年度末比992億円減少して6,658億円となりました。

		平成31年3月期 第2四半期		前年同期比
損益	経常収益	36,871百万円		1,974百万円
	経常費用	28,061百万円		1,913百万円
	経常利益	8,810百万円		61百万円
	親会社株主に帰属する中間純利益	6,579百万円		715百万円
		平成31年3月期 第2四半期末		前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	38,282億円		158億円
	純資産	2,251億円		59億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	34,963億円		966億円
	貸出金	27,289億円		512億円
	有価証券	6,658億円		△992億円
	自己資本比率（国内基準）	9.06%		0.09%

## (2) 平成31年3月期通期（平成30年4月1日～平成31年3月31日）連結業績予想

平成30年5月15日に公表しております平成31年3月期通期の連結業績予想（経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益）につきましては、以下のとおり修正しております。なお、平成30年8月10日に公表しております当社の完全子会社である徳島銀行及び大正銀行の合併に伴う今期の連結業績への影響は軽微であると見込んでおり、今回の連結業績予想には織り込んでおりませんが、今後開示すべき事象が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

## ①修正内容

(単位：百万円)

	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
前回発表予想（A）	14,200	9,500
今回修正予想（B）	15,400	11,000
増減額（B-A）	1,200	1,500
増減率（%）	8.4	15.7

## ②修正理由

当社銀行子会社3行において、第2四半期までの有価証券利息配当金が当初予想を上回ったことや経費及び与信関連費用が当初予想を下回ったこと等から、平成31年3月期第2四半期累計期間の連結業績は当初予想を上回る結果となりました。こうした第2四半期までの業績を踏まえて、平成31年3月期通期の連結業績予想を上方修正するものであります。

## 2. 徳島銀行

### (1) 平成31年3月期第2四半期（平成30年4月1日～平成30年9月30日）単体業績

当第2四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び国債等債券売却益が増加したこと等により、前年同期比1,301百万円増加して14,702百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益や役員取引等利益が増加したこと等により、前年同期比790百万円増加して10,788百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比770百万円増加して4,117百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が増加したものの、前年同期比129百万円増加して4,061百万円となり、中間純利益は、前年同期比359百万円増加して2,988百万円となりました。

当第2四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比328億円増加して1兆5,283億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比362億円増加して1兆6,521億円となりました。また、貸出金残高は、積極的な営業活動により中小企業・個人向け貸出等の取組みを進めたこと等により、前年度末比246億円増加して1兆896億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.92%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りましたが、前年度末比584百万円増加して18,598百万円、総与信に占める割合は1.67%となりました。

		平成31年3月期 第2四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	14,702百万円	1,301百万円
	コア業務粗利益	10,788百万円	790百万円
	コア業務純益	4,117百万円	770百万円
	経常利益	4,061百万円	129百万円
	中間純利益	2,988百万円	359百万円
	与信関連費用	285百万円	438百万円
		平成31年3月期 第2四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	16,337億円	△181億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	15,283億円	328億円
	総預り資産	16,521億円	362億円
	貸出金	10,896億円	246億円
	有価証券	3,444億円	△810億円
	自己資本比率（国内基準）	8.92%	0.05%
不良債権	金融再生法開示債権額	18,598百万円	584百万円
	総与信に占める割合	1.67%	0.01%

### (2) 平成31年3月期通期（平成30年4月1日～平成31年3月31日）単体業績予想

平成30年5月15日に公表しております平成31年3月期通期の単体業績予想（経常利益及び当期純利益）につきましては、第2四半期までの実績を踏まえ、以下のとおり修正しております。

（単位：百万円）

	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	6,500	4,500
今回修正予想（B）	7,250	5,200
増減額（B-A）	750	700
増減率（%）	11.5	15.5

### 3. 香川銀行

#### (1) 平成31年3月期第2四半期（平成30年4月1日～平成30年9月30日）単体業績

当第2四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息、役務取引等収益及び国債等債券売却益が増加したこと等により、前年同期比15百万円増加して13,468百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、役務取引等利益が増加したこと等により、前年同期比122百万円増加して10,804百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期比281百万円増加して3,466百万円となりました。

経常利益は、株式等関係損益が減少したものの、前年同期比161百万円増加して3,588百万円となり、中間純利益は、前年同期比595百万円増加して2,747百万円となりました。

当第2四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比568億円増加して1兆5,195億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比538億円増加して1兆6,613億円となりました。また、貸出金残高は、積極的な営業活動により中小企業・個人向け貸出等の取組みを進めたこと等により、前年度末比217億円増加して1兆2,430億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.81%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比561百万円減少して21,393百万円、総与信に占める割合は1.69%となりました。

		平成31年3月期 第2四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	13,468百万円	15百万円
	コア業務粗利益	10,804百万円	122百万円
	コア業務純益	3,466百万円	281百万円
	経常利益	3,588百万円	161百万円
	中間純利益	2,747百万円	595百万円
	与信関連費用	333百万円	55百万円
		平成31年3月期 第2四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	16,906億円	234億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	15,195億円	568億円
	総預り資産	16,613億円	538億円
	貸出金	12,430億円	217億円
	有価証券	2,818億円	△55億円
	自己資本比率（国内基準）	9.81%	△0.01%
不良債権	金融再生法開示債権額	21,393百万円	△561百万円
	総与信に占める割合	1.69%	△0.08%

#### (2) 平成31年3月期通期（平成30年4月1日～平成31年3月31日）単体業績予想

平成30年5月15日に公表しております平成31年3月期通期の単体業績予想（経常利益及び当期純利益）につきましては、第2四半期までの実績を踏まえ、以下のとおり修正しております。

（単位：百万円）

	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	6,250	4,050
今回修正予想（B）	6,600	4,700
増減額（B-A）	350	650
増減率（%）	5.6	16.0

#### 4. 大正銀行

##### (1) 平成31年3月期第2四半期（平成30年4月1日～平成30年9月30日）単体業績

当第2四半期の損益状況は、経常収益は、利回りの低下により貸出金利息が減少したものの、有価証券利息配当金が増加したこと等により前年同期比236百万円増加して4,901百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比241百万円増加して4,073百万円、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比275百万円増加して935百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が増加したものの、上記要因等により前年同期比134百万円増加して990百万円となり、中間純利益は、前年同期比106百万円増加して700百万円となりました。

当第2四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人預金が増加したこと等により前年度末比71億円増加して4,727億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比77億円増加して4,943億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比53億円増加して4,045億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は6.39%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比128百万円減少して6,353百万円、総与信に占める割合は1.56%となりました。

		平成31年3月期 第2四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	4,901百万円	236百万円
	コア業務粗利益	4,073百万円	241百万円
	コア業務純益	935百万円	275百万円
	経常利益	990百万円	134百万円
	中間純利益	700百万円	106百万円
	与信関連費用	46百万円	112百万円
		平成31年3月期 第2四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	5,222億円	111億円
	預金（譲渡性預金を含む）	4,727億円	71億円
	総預り資産	4,943億円	77億円
	貸出金	4,045億円	53億円
	有価証券	373億円	△126億円
	自己資本比率（国内基準）	6.39%	0.37%
不良債権	金融再生法開示債権額	6,353百万円	△128百万円
	総与信に占める割合	1.56%	△0.06%

##### (2) 平成31年3月期通期（平成30年4月1日～平成31年3月31日）単体業績予想

平成30年5月15日に公表しております平成31年3月期通期の単体業績予想（経常利益及び当期純利益）につきましては、第2四半期までの実績を踏まえ、以下のとおり修正しております。

（単位：百万円）

	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	1,150	750
今回修正予想（B）	1,250	850
増減額（B-A）	100	100
増減率（%）	8.6	13.3

以上

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部	TEL：087-812-0102
株式会社徳島銀行 企画部	TEL：088-656-1118
株式会社香川銀行 総合企画部	TEL：087-812-5132
株式会社大正銀行 企画部	TEL：06-6205-8400